

科目名	Society5.0と情報				
担当者	大野 隆士（OHNO, Takashi）、近藤 諭（KONDO, Satoru）				
授業形態	講義	単位数	2単位	開講期	後期
科目コード	CM058ba1Lc3	CM058g41Lc3			
科目群	共通_教養基礎	共通4群			
必修・選択	選択				
配当年次	1				
教育プログラム	Society5.0基礎プログラム必修科目				

授業内容	メディアの発展とそれに伴うコミュニケーションへの影響についての理解を通して、コミュニケーションや情報伝達がどのように変化してきたのかを学ぶ。人工知能(AI)、IoT、ビッグデータなど、Society 5.0 を構成するための新しい技術により、これからの社会がどのように変化していくのかを考える。方法として、受講メンバーでグループを組み、アクティブ・ラーニングを実施する。それぞれのグループで、これらについてディスカッションし、問題を発見し、解決法について考え、それを提示・発表することを通して理解を深める。
授業の到達目標	・音、声、ことば、文字・記号、印刷技術、写真技術、通信技術などが、コミュニケーションを円滑にするために発展し、結果として社会制度の変革につながってきたことが理解できる。 ・更に、SNSなどの新しいコミュニケーション・メディアが、これまで以上に社会制度や人間関係を変革させ、私たちの生活や思考を変えていくことについて、事例を通して考えることが出来る。 ・ネットワークとコンピュータの発達により、データの取得が簡単になり、AIの登場によって社会が変化しつつあることを理解する。 ・データ・AIを活用するために使われている技術の概要を理解し、それらによって取り扱われるデータやAIを使う上で留意すべきことを理解する。 ・個人や企業、国家が持つデータを守る上で必要な情報セキュリティ、取り扱い方法について理解する。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション メディアとは何か：音、声、ことば、文字、印刷技術(本／雑誌／新聞) 有線通信技術と文字・音声メディア(電信／電話)	近藤・大野
第2回	無線通信技術と音声・映像メディア(ラジオ／テレビ／映画) 無線通信技術と遠隔コミュニケーション(無線機／携帯電話)	大野
第3回	インターネット関連技術とデータベース・情報検索 インターネット関連技術と双方向メディア	大野
第4回	未来のメディア 人工知能(AI)、モノのインターネット(IoT)、ビッグデータ、Society 5.0	大野
第5回	データ、AIの利活用による社会の変化（ビジネス/サービス編）	近藤
第6回	データ、AIの利活用による社会の変化（個人/コミュニケーション編）	近藤
第7回	メディアの変化、データ、AIの活用がもたらす影響（まとめ）	近藤
第8回	グループワーク(0) (グループ分け、グループワークの注意点など)	近藤・大野
第9回	個人ワーク(1) (グループワーク前の準備)	近藤・大野
第10回	個人ワーク(2) (グループワーク前の準備)	近藤・大野
第11回	グループワーク（1）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)	近藤・大野
第12回	グループワーク（2）(グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる)	近藤・大野

第13回	グループワーク（3）（グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる）				近藤・大野
第14回	グループワーク（4）（グループ内・外の学生同士でディスカッションし、意見をまとめる）				近藤・大野
第15回	総まとめ（各グループごとにプレゼンテーションを行なう）				近藤・大野
授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	（その他の活動）
	○	○	○		コンピュータ機器の操作
事前学習	・グループで課題が出された時は、授業時間以外でも打ち合わせして、グループでの課題学習に取り組むこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。			事前学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で出てきた用語や、他グループの報告内容の分からないところを、各自で復習して理解を完全にするよう努めること。			事後学習合計時間(h)	30時間
課題に対するフィードバックの方法	主として、Moodle等のCMSを用いる。				
質問・相談方法	講義内、講義後に質問を受け付ける。時間を要する場合は、オフィスアワー時に対応する。必要に応じて質問、相談に対する回答をMoodleに掲載する。				
使用教材	教科書は特に指定しない。適宜ハンドアウトを用いる。				
参考文献	必要なときに指示する。				
成績評価基準	「種々のメディアの特性や、その役割の理解、新しいメディアを利用する上で注意を払う点やコミュニケーションに対する変化についての理解度」を合否判断の基準とする。				
成績評価の方法	受講態度20%、グループ学習成果40%、個人別課題の提出20%、レポート20%				
GPA基準					
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。				
<担当教員の実務経験と授業との関連>					
<読書課題の成績評価方法>	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。				
資格情報					
授業の実施方法	対面授業を実施します。対面授業が実施困難な場合は原則休講とし、後日補講等を行います。				